

第 84 回九州循環器撮影研究会 抄録

メーカー発表 (device について)

『血栓吸引デバイス「INDIGO システム」』

朝日インテック J セールズ株式会社 横嶋 一仁

血栓除去デバイス「INDIGO システム」は、2023 年 4 月に薬事承認を取得し、同年 9 月に保険収載されました。本デバイスは現在、製造販売後調査 500 例を経て、1000 例の全例登録による学会主導のレジストリーが進行中です。今回、INDIGO システムの国内導入の背景と適正使用指針、製品の特長や操作方法、使用時の留意点について解説します。

『IVUS 測定の標準化と新デバイスがもたらす治療効果』

株式会社フィリップス・ジャパン 畠山 和也

近年、EVT における治療エビデンスに関し、IVUS の有効性が示唆され始めております。それに伴い測定の標準化の重要性も高まっており、正しく測定し、正しく理解する事が重要とされています。また最近では EVT でレーザーも使用できるようになりましたので、併せてご紹介させていただきます。

メーカー発表 (血管造影装置について)

『血管撮影装置 Alphenix / EVT における最新情報』

キヤノンメディカルシステムズ株式会社 猪俣 慎之介

血管撮影装置 Alphenix は、ハード・ソフトを大きく刷新し、画質の向上・被ばく低減を実現した装置です。ダイナミックレンジは従来よりも 16 倍広くなり、ハレーションの抑制や淡く造影される細かな血管像のコントラストの表現力が向上しています。また、背景の情報を損なわずに関心領域にのみ X 線を照射する被ばく低減機能、そのほか最新技術についてご紹介します。

『Trinias Opera に実装された EVT Operator が求める EVT 支援ツールのご紹介』

株式会社島津製作所・メドテック営業部 濱崎 孔明

2022 年 4 月に発売した新型血管撮影システム Trinias Opera シリーズより、従来機種からフルモデルチェンジした新しいインターフェイスと、末梢動脈疾患に対する臨床支援機能をご紹介申し上げます。

ユーザー発表

CT『下肢血管を可視化せよ！可変注入が切り拓く未来』

社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 画像診断センター 田原 琢朗

本講演では、LEAD患者を対象とした下肢CT-Angiography (CTA)における撮影技術、造影技術、画像処理技術の要点について解説する。下肢CTAでは、広範囲にわたり流速の異なる微細な血管を、可能な限り造影効果を高めて撮影する必要がある。そこで、造影技術の一つである『可変注入法』に焦点を当て、下肢血管の高精度な評価を可能にする具体的な手法について詳しく紹介する。本講演が、血管内治療における診断精度向上に寄与する一助となれば幸いである。

Angio『カテーテル室での放射線技師の役割 ～EVT編～』

一般財団法人平成紫川会 小倉記念病院 放射線技師部 森下 浩

LEAD (lower extremity artery disease) に対する EVT は、侵襲度が低く、高齢者や外科的治療が困難な患者の治療法として多く選択されている。当院でも、大動脈腸骨動脈領域から大腿膝窩、膝下領域に対して治療を行っている。放射線技師はチームの一員として EVT に携わっており、画像支援、装置の操作・情報支援、被ばく管理・啓蒙などの役割を担っている。今回は、当院での治療環境や取り組みを紹介する。

IVUS『EVT領域でIVUSを用いる意義』

医療法人あかね会土谷総合病院 診療補助部放射線室 石橋 徹

近年、下肢動脈疾患 (LEAD) の評価にも IVUS を用いた治療方針が主流となっている。定量的かつ形態学的評価を行うには評価方法の標準化が重要である。EVT 領域における IVUS の有用性とその測定方法などについて 2022 年に Publish された下肢領域のイメージングモダリティのコンセンサスドキュメント「JET Imaging Consensus Document」をベースに解説を行う。

特別講演『EVTに必要な知識と線量調査について』

筑波メディカルセンター病院 放射線技術科 石橋 智通

近年、末梢動脈疾患における血管内治療 (EVT) の需要が高まり、放射線技師としての役割は増している。本講演では、EVT の基礎知識から最新の技術動向を解説するとともに、被ばく線量の管理や最適化に関する調査結果について共有する。また診療放射線技師として EVT に携わる際の実践力を高めるために必要な知識や具体的な支援方法について概説する。